ブラジル　サンパウロ州の柑橘類地帯で降雨に安堵

Cepea　2024年7月18日

セペア、2024年7月18日 － サンパウロ州の多くの柑橘類産地では、乾燥した天候が数週間続いた後、7月中旬に雨が降った。降雨量は地域によって均一ではなかった（降雨は特に同州の南部と南西部で記録された）が、乾燥した天候の果樹への影響を既に懸念していた柑橘類生産者達には一定の安心感をもたらした。

降雨量が多かった同州の南西部では、開花が始まる可能性が有る。降雨がそれよりも少なかった（記録されなかった）地域では、開花にはより高い湿度が必要である。（タヒチライムに関しては、現時点では最近の降雨によって供給が増加する可能性は低いが、今後数週間の収量と品質に有利に働く可能性がある。）

2023/24年度シーズンの果汁輸出量の減少 － ブラジルのオレンジ果汁の出荷量は、前作で増加した後、2023/24年度シーズン（2023年7月～2024年6月）は減少した。ブラジルの輸出量は100万トンで、前シーズン比8.1％減となった（Comex Stat（ブラジル政府の対外貿易統計）のデータ）。輸出額は27億米ドルで、同25％増となった。輸出量の減少は、主にブラジルの果汁在庫量の少なさに関係している。

加工の状況 － サンパウロ州では、オレンジの加工が引き続き速いペースで進んでいる。セペアが調査した複数の業者は、今シーズンは搾汁が例年より進んでおり、今月には早生品種の加工量が減少する可能性が高いと述べている。昨年は搾汁が終了したのは9月の後半であったが、2024/25年度の搾汁は7月または8月に終了すると見込まれる。

セペア/Cepea（サンパウロ大学応用経済高等研究センター）

チリ　2023/24年度のブドウ輸出は好成績

EUROFRUIT　2024年7月19日

輸出量と輸出額の増加は、一層の品質重視、新品種、物流の改善を反映

チリは2023/24年度に輸出額（FOB）で10億米ドル以上に相当する6,400万箱の生食用ブドウを輸出し、前年同期と比較して数量で7％、金額で13％増加した。悪天候による生産量の減少にもかかわらず、結果は改善された。フルタス・デ・チリ（チリ果実輸出業者協会）のイバン・マランビオ会長は、この結果への満足感を表明し、これはこのセクターにおける継続的な品質の改善を反映しているとして、「今シーズンは、新品種の生産と輸出も増加し、3,900万箱と総出荷量の62％を占めた」と述べた。

マランビオ氏は、最近設立された生食用ブドウ委員会の、特に主要輸出市場である米国での競争力を向上させるという戦略が功を奏したと指摘し、「これらはすべて、米国カリフォルニア州及びペルーからの供給の減少によっても促進された。両国は、悪天候により我が国よりも大きな打撃を受けた」と述べた。マランビオ氏によると、チリの業績を押し上げた要因は他に2つある。第1に物流の改善であり、第2に第14週（4月上旬）以降にチリからの供給が増加したにもかかわらず、米国市場での価格が安定していたことである。

アイコンサルティング社のエグゼクティブディレクターであるイサベル・キロス氏は、チリの品種更新はペルーや南アフリカと比べて遅かったが、今やその成果が出始めていると説明し、「凡庸な果実が入り込む余地がない一方、強豪達の中で競争する意思がある限り、生食用ブドウ産業は魅力的であり続けることが理解された」と語った。チリの主な新品種は、スイートグローブ（種無し白ブドウ）が12％、アリソン（種無し赤ブドウ）が11％、スイートセレブレーション（同）が10％である。直近のシーズンに急激な成長を見せた品種は、スイートグローブ、オータムクリスプ、スイートフレーバーであった。ティムコとコットンキャンディは減少した。

生食用ブドウの出荷シーズンが改善したことで、2024年上半期の生鮮果実の輸出量は過去最高を記録した。政府の貿易促進機関（ProChile）が分析した税関データによると、1月から7月までの出荷額は70億米ドルを超え、前年同期比で9％増加した。同機関の責任者であるロレーナ・セプルベダ氏は、「チリ産の果実は、その品質、安全性、風味で世界における地位を確立し、農業部門全体を後押ししている」と述べた。

執筆者：マウラ・マクスウェル